

(別添)

## 考查項目別運用表の記入方法及び留意事項

### 1 採点における標準的な考え方や留意事項

#### (1) 工種が特定できない場合

工種が複数に及ぶ場合は、主な工種で選択し、「運用表」にない工種の場合は、当該工事により近い工種を参考にして選択するものとする。

#### (2) 文書による改善、又は破壊を行った場合等の評価

評価対象項目にd又はeが1つでもある場合は、評価対象項目の該当項目によらず、d又はeの判定を行う。

#### (3) 運用表の中の評価対象外項目

評価対象項目で評価対象外の項目は削除した上、判定を行う。

#### (4) ばらつきによる基準

ばらつきによる判定は、試料数が概ね30個以上ある場合に行うことを基本とする。

#### (5) 品質、出来ばえの評価

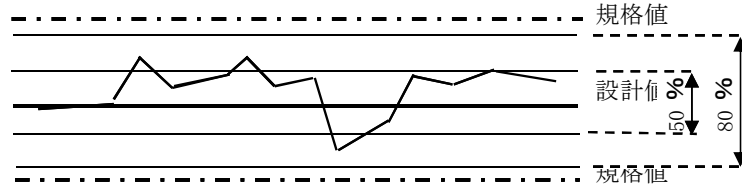
品質、出来ばえについての評価はそれぞれの工種で判定を行う。

### 2 出来形及び品質のばらつきの考え方

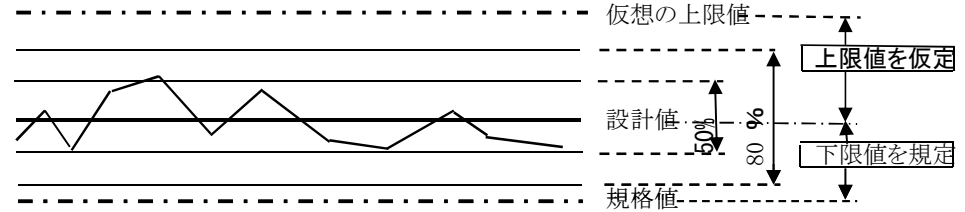
[管理図の場合]

(上・下限値がある場合)

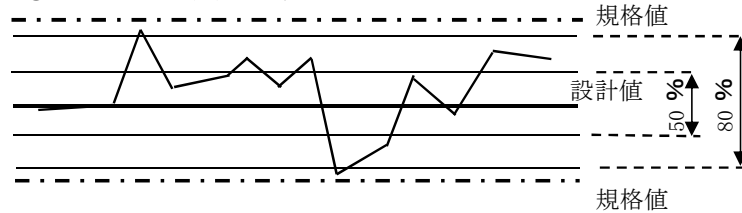
#### ① ばらつきが50%以下と判断できる例



(下限値のみの場合)

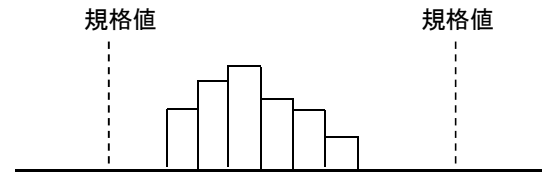


#### ② ばらつきが80%以下と判断できる例

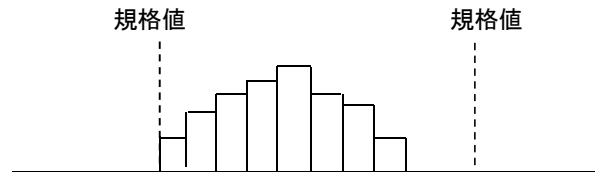


[度数表又は、ヒストグラムの場合]

ばらつきが小さい



ばらついている



ばらつきが大きい

